

石造物調査

石造物調査では毎年、分布調査と悉皆調査を行っています。

分布調査は昆布山谷、大谷、栃畑谷で行い、32カ所で約2,700基の石造物を確認しました。古い銘文は極楽寺(1593年)、長楽寺跡(1590年)、妙本寺上墓地(1576年)、徳善寺跡(1582年)などがありました。

悉皆調査は勝源寺、妙蓮寺、大安寺跡の奉行・代官墓所や安養寺、大龍寺跡、豊栄神社を対象に行いました。昨年度と今年度で大森町にある奉行・代官墓所の石造物調査を終了しました。

安養寺では約300基を調査し、記載されている銘文から18世紀後半から19世紀前半に多くの墓標が造られていること、丘陵を加工し、平坦を造り、その平坦面に数基の石造物がまとまっていることがわかりました。



大安寺跡(浄土宗)

大型の組合せ五輪塔と大久保長安公碑だけでなく、周辺にある墓碑も調査しました。復元すると高さ2m以上の大型の組合せ宝篋印塔がありました。



勝源寺(浄土宗)

竹村丹後守、森八左衛門、前澤藤十郎、関忠太夫、鈴木八右衛門、会田伊右衛門の奉行・代官及びその家族の墓塔や、奉行等により寄進された灯籠を調査しました。



大龍寺跡(臨済宗)

天正10年(1582)銘開山和尚の無縫塔、寛政2年(1790)銘の無縫塔などの実測や組合せ宝篋印塔を納めたと考えられる石廟の図上復元などを行いました。



安養寺(浄土真宗)

実測図作成、写真撮影、採拓、銘文の解明など立正大学の池上悟助教授や院生・学生などに依頼して調査しました。古いものとしては元和4年(1618)銘の一石宝篋印塔がありますが、多くは近世後半の角塔です。



妙蓮寺(日蓮宗)

代官阿久沢修理墓所及び周辺の灯籠を調査しました。墓碑の廻りには玉垣が巡っています。

豊栄神社

石工名の確認などを目的に寄進灯籠を中心に調査しました。豊栄神社は幕末の長州戦争時、長州藩士により寄進された石造物があり、大森に進駐した多くの人名が記載されています。

